

2. いくつかの医院あるいは病院のうちから子どもの様子に応じてかかる

(2) どのような病院（医院）ですか（該当するものすべてを選んでください）

1. 開業の医院（外来の診療だけ） → (3) へ進んでください
2. 個人の病院（入院できる） →
3. たくさんの診療科のある大規模な病院 → (4) へ進んでください

(3) 前問（2）で「1. 開業の医院」を選んだ方は、次の問にお答えください。

（複数の医師がいる開業の医院では主に診てもらっている医師についてお答え下さい）

(3) _1 かかりつけの医師の専門は何科ですか（一つを選んでください）

1. 小児科 2. 内科／小児科 3. 内科 4. 産婦人科 5. 耳鼻科
6. その他（ ） 7. わからない

(3) _2 かかりつけの医師の年齢はだいたい何歳ぐらいと思いますか（一つを選んでください）

1. 30代 2. 40代 3. 50代 4. 60代 5. 70代以上

(4) 前問（2）で、「2. 個人の病院」または「3. 大規模な病院」を選んだ方は、次の問にお答えください

(4) _1 いつもかかる診療科は何科ですか（一つを選んでください）

1. 小児科 2. 内科 3. 産婦人科 4. 耳鼻科 5. その他（ ）
6. とくに決めていない

(4) _2 いつも同じ医師に診てもらっていますか

1. いつも決まった医師 2. 数人の決まった医師 3. いつもちがう医師

(5) かかりつけの医院あるいは病院の診療体制について教えてください（一つを選んでください）

- i) 育児相談（健診）は 1. いつでも診てもらえる 2. 日が決まっている 3. やっていない
ii) 予防接種は 1. いつでも受けられる 2. 日が決まっている 3. やっていない
iii) 予約診療制は 1. ある 2. ない
iv) 夜間や休日の急病のとき 1. いつでも診てもらえる 2. 当番のときだけ診てもらえる
3. 診てもらえない
v) 医院あるいは病院内に子育て中の親子の集まり（グループ活動）がありますか
1. ある 2. ない 3. わからない
vi) 医院あるいは病院内に医師の診療以外に子育ての悩みについて相談にのってくれる窓口がありますか
1. ある 2. ない 3. わからない
vii) 栄養士（乳業会社からきている人も含む）による栄養相談はありますか
1. ある 2. ない 3. わからない

(6) どんなときにかかりつけの医師を利用していますか（あてはまるものすべてに○をつけてください）

1. 急病のとき 2. 子どものことで相談したいとき 3. 予防接種 4. 健康診断
5. 子育てに不安を感じたとき 6. 家族や家庭のことで相談したいとき
7. 利用できる距離にある専門の施設（または機関、専門病院を含む）などの情報を知りたいとき
8. その他（ ）

(7) かかりつけの医師から子育てについてのアドバイスを受けていますか（一つを選んでください）

1. いつも受けている 2. ときどき受けている 3. 殆ど受けていない 4. 全く受けていない

(7) _1 アドバイスは参考になりましたか (一つを選んでください)

1. とても参考になった
2. 参考になった
3. どちらともいえない
4. ほとんど参考にはならなかった
5. 全く参考にはならなかった

(7) _2に回答してください



(7) _2 参考にならなかった理由は何でしょうか? (あてはまるものすべてに○をつけてください)

1. 専門用語が多く説明が理解できなかった
2. 内容があまり現実的でなかった
3. 内容が古く、世代の差を感じた
4. かえって、不安が大きくなった
5. 一方的な説明で受け入れがたかった
6. 母親の責任が強調されて重荷になった
7. その他 (自由に記載してください)

(7) _2 7. その他の記載欄:

質問2 かかりつけ医に関してのあなたのご意見を伺います

(1) かかりつけ医にどのようなことを望みますか (あてはまるものすべてに○をつけてください)

1. 急病のときの治療
2. 待たされない診療
3. 子育てへのアドバイス
4. 予防接種
5. 健康診断や健康に関する相談
6. 家族や家庭の悩みへの相談
7. 利用できる距離にあるいろいろな専門の施設 (または機関、専門病院を含む) についての情報の提供
8. 定期的な子育てについての勉強会
9. その他 ()

(2) かかりつけ医にとって大切な事はどのような事だと思いますか

(右の回答の中からあてはまるものの番号に○を付けてください)。

きわめて大切 まあ大切 さほど大切でない 大切ではない

- | | | | | | | | | |
|--------------------------|-------|---|-------|---|-------|---|-------|---|
| 1. 小児科専門医である | | 1 | | 2 | | 3 | | 4 |
| 2. たくさんの診療科を掲げている | | 1 | | 2 | | 3 | | 4 |
| 3. 自宅から近い | | 1 | | 2 | | 3 | | 4 |
| 4. あなたの親 (義父母も含む) の家から近い | | 1 | | 2 | | 3 | | 4 |
| 5. 夜間・休日でも相談に応じてくれる | | 1 | | 2 | | 3 | | 4 |
| 6. 性格がやさしくて人柄がいい | | 1 | | 2 | | 3 | | 4 |
| 7. 思いやりはあるがきびしい | | 1 | | 2 | | 3 | | 4 |
| 8. 女性の医師 | | 1 | | 2 | | 3 | | 4 |

9. 男性の医師 1 2 3 4
10. 若い子育て世代の医師 1 2 3 4
11. 経験豊かな年配の医師 1 2 3 4
- (およそ _____ 歳代ぐらいの医師)
12. 病状についてよく説明してくれる 1 2 3 4
13. 薬についてよく説明をしてくれる 1 2 3 4
14. 希望どおりに薬をくれる 1 2 3 4
15. 薬をできるだけ出さない 1 2 3 4
16. 家族全員がお世話になっている 1 2 3 4
17. 近所で評判がいい 1 2 3 4
18. いつも混んでいてはやっている 1 2 3 4
19. 適切に専門病院へ紹介してくれる 1 2 3 4
20. 子ども好きで、子どもをかわいがる 1 2 3 4
21. きちんと、子どもを叱る 1 2 3 4
22. 親の悪いところをきちんと指摘してくれる 1 2 3 4
23. 医院・病院の設備がいい 1 2 3 4
24. 看護婦さんなどスタッフの対応がいい 1 2 3 4
25. 子育てグループ・サークルなどへ積極的に参加してくれる 1 2 3 4
26. 勉強会などへの参加をお願いすれば気さくに出向いてくれる 1 2 3 4

(3) 他にかかりつけ医として大切と思われる事がありましたら、具体的な意見を聞かせてください。

IV. 出生前小児保健指導（プレネイタルビジット）についてお尋ねします。

プレネイタルビジットとは、市町村が実施しているサービスで、妊娠中にかかっている産婦人科の医師から地域の小児科の医師を紹介してもらい、生まれてくるお子さんの健康や育児に関するアドバイスをお子さんが生まれる前に聞いておけるという社会サービス（制度）です。

質問1 この制度についてご存知ですか（一つを選んでください）

1. 全く知らない —————> 質問4 に進んでください
2. 聞いたことがある —————> |
3. 知っている —————> | 1_2 に進んでください

▶ 1_2 あなたがお住まいの市町村ではこのサービスが実施されていますか（一つを選んでください）

1. 実施されていない
2. わからない
3. 実施されている —————> 質問3へ進んでください

質問3 あなたは、過去においてこの制度を利用しましたか（一つを選んでください）

- 1. 利用した
- 2. 利用していない

▶ 3_1 利用した感想をお聞かせください。（あてはまるものすべてを選んでください）

- 1. 生まれてくる子どもについての話を聞いたけれど、あまり実感がわかず役に立たなかった
- 2. 生まれる子どものことを聞いておいたので安心してお産に臨めた
- 3. 出産後自宅に帰ってからの子育てに大いに役立ち、あまり子育てに不安がわかなかった
- 4. 出産後自宅に帰ってからの子育ては、聞いた話とは異なりあまり参考にならなかった
- 5. 生まれる前に子どもの主治医が決まって安心できた
- 6. 出産後自宅に帰ってから、別の主治医を捜したのであまり役立たなかった
- 7. その他（ ）

質問4 今回、相談室でご相談をされたお子さんはいわゆる「里帰り出産」でしたか

- 1. はい
- 2. いいえ

質問5 あなたがお住まいの近くに、この制度があったら利用しようと思いますか、あるいは利用したと思いますか（一つを選んでください）

- 1. 利用する（した）と思う
- 2. わからない
- 3. 利用しない（しなかった）と思う

質問6 生まれる前に子どもの健康や発達、育児のことを聞いておくことは、役立つことだと思いますか

- 1. 役立つことだと思う
- 2. わからない
- 3. 役立つとは思えない



これで終わりです。
長い間お時間をいた
だきありがとうございます
ございました

集計した概要は相談室にお渡ししておきますので、ご興味のある方はご覧ください。
なおインターネットをご利用される方は、以下のURLに結果を掲載いたします。

<http://www.aiiku.or.jp/rpi/nakamura/index.htm>

研究班一同感謝いたします。

厚生科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）
分担研究報告書
子どもの心とかかりつけ医の関係
分担研究者 保科 清 東京逋信病院小児科部長

研究要旨

かかりつけ医からみた育児不安について、アンケート調査を行った。3,825 通発送し、回答は 2,017 通（回収率 52.7%）であった。育児不安をかかえている親が増えてきたと感じている小児科医が 44%。育児不安に関する質問に、十分できているという回答と、不十分だができているという回答を合わせると 83%であった。今後、細かな集計を行う。

研究目的

子どもの心の発達を、その子が乳幼児期から診ているのは小児科医だけといっても過言ではないであろう。子どもの心に何か問題がありそうな時には、初期の段階で小児科医を受診していることが多いのも事実である。

そこで、育児不安をもつ親（保護者を含む）に、小児科医がかかりつけ医としてどのように育児不安を捉えているか、育児不安を持つ親にどんな行動をしているか、今後どのような行動を起こそうとしているか、プレネイタルビジット事業とも兼ね合わせて検討する。

研究方法

社団法人日本小児科医会の会員で、診療所を開設している小児科医にアンケート調査を行った。アンケート用紙の質問事項作成は、(社)日本小児科医会子どもの心研修委員会が中心となって作成した。

対象となる医師数 3,825 名に、アンケート用紙を送付し、郵送による回答を得た。回答者数は 2,017 名で、回収率は 52.7%であった。

アンケートの質問事項作成に時間がかかり、回答期限を 1 月末としたが、2 月 22 日まで遅れながらも回答してくれた。

全データをコンピューターに打ち込むのに、約 3 週間を要することになる。

アンケート質問事項から、欲しいデータの内容を前もって打ち合わせし、データ解析の参考とする。

研究結果

まだ最終結果を得るに至っていないが、簡単に集計した結果を下記に示す。

1. 育児不安の相談は、時々あると多いを合わせると 80%以上であった。
2. 相談の内容は、体重や身長の方がもっとも多く、次いで、一般的な食事や排泄などの相談や、子どもの性格や癖などに関する相談だった。
3. 育児不安に関する相談への対応は、十分できているが 13%と低く、不十分だができているという回答が 70%であった。問題は対応できていないという回答が 13%もあったことである。
4. 育児不安をかかえている親が増えてきたと感じますかという設問に、増えてきたという回答が 44%で、変わらないという回答が 38%であった。

5. 乳幼児をもつ親の育児不安をどのようにとらえていますかという設問に、親への教育が必要としたのが 24% と多く、次いで、親への各方面からの支援が必要という回答が 22%であった。

6. 育児不安軽減に小児科医がやれることはありますかという設問に、「ある」というのが 78%。「あると思うがあまり考えていない」と「かかわる余裕がない」を合わせると 19%もあった。

7. プレネイタルビジット事業の認知度は、70%であった。無関心が 30%であった。

これからの小児科医は、親子関係も含めた観察も必要な時代となってきたので、かかりつけ医としても、いかに親ないし保護者の育児不安軽減に寄与できるかを考慮しなければならない時代になっている。

10. 3歳までの子どもを預けて両親が働くことについて（複数回答可）
- 1) 特に問題はない
 - 2) 保育環境が整っていれば問題ない
 - 3) 生活のためならしかたがない
 - 4) 他人に預けないで母親が育てるべき
 - 5) 預けると子どもの育ちにいい影響はない
 - 6) 子どもがかawaiiそう
 - 7) その他（ ）
11. 最近の父親による育児へのかかわりは
- 1) 十分である
 - 2) かなりかかわるようになっている
 - 3) 不十分である
 - 4) 父親がかかわっても役立たない
 - 5) わからない
12. あふれる情報も育児不安増長原因のひとつとされています。乳幼児期の育児不安を増長させている原因は（複数回答可）
- 1) 育児雑誌
 - 2) 育児書
 - 3) 新聞、テレビなどのマスコミ
 - 4) 医療機関での親への対応
 - 5) その他（ ）
13. 両親が抱える育児不安について先生が感じる小児科医全般の意識はどの程度とされますか
- 1) 高いと思う
 - 2) あまり高くない
 - 3) 低いと思う
 - 4) あまり親のニーズを把握していない
 - 5) わからない
14. これから医療機関における育児不安の相談は
- 1) 減ると思う
 - 2) 変わらないと思う
 - 3) 増えると思う
15. 育児不安軽減のためには（複数回答可）
- 1) 何らかの支援体制が必要（例えば、 ）
 - 2) 可能な限り親の負担は軽減すべき
 - 3) 育児不安軽減のために公的サービスを充実させる
 - 4) 支援体制がなくても本来子供を育てられるはず
 - 5) 支援体制を作っても無駄である
 - 6) その他（ ）
16. 全般的にかかりつけ小児科医による乳幼児期の育児不安への対応は
- 1) 十分されている
 - 2) かなりされている
 - 3) 不十分である
 - 4) わからない

17. 育児不安軽減のために小児科医がやれることはあると思いますか

- 1) ある
- 2) ほとんどない
- 3) あると思うがあまり考えていない
- 4) かかわる余裕はない
- 5) わからない

→ 1) ある と答えた先生に

17-1 どのようなことが出来るとお考えですか（複数回答可）

- 1) 妊婦に育児指導の冊子を配布する。
- 2) 母親(両親)学級に小児科(新生児科)医の参画
- 3) 妊娠中に小児科(新生児科)医が個別に育児相談・指導
- 4) 出産後早期に母親と小児科(新生児科)医が面談
- 5) 育児サークルなどへ小児科(新生児科)医が積極的に参加
- 6) その他 ()
- 7) 現在、実践されていることがあればお書き下さい ()

18. 育児不安に対応する小児科医への講習会があれば

- 1) 参加したい
- 2) 参加したいが時間がない
- 3) 必要ない
- 4) 参加するかどうかわからない

19. プレネイタル・ビジット（小児科医の行う出産前育児指導）について
この事業を

- 1) 知っている
- 2) 知らない

→ 1) 知っている とお答えの先生に

19-1 プレネイタルビジットを

- 1) 行っている
- 2) 機会があればやりたい
- 3) やりたくない
- 4) その他 ()

→ 19-1 で 1) 行っているとお答えの先生に、

19-2 その問題点や効果などお気づきの点を簡潔に書いてください
()

→ 19-1 で 3) やりたくないとお答えの先生に、

19-3 その理由を簡潔に書いてください
()

20. 学童期以後の心の相談を受けることがありますか

- 1) 多い
- 2) ときどき
- 3) ほとんどない

21. 学童期後半以後の思春期の問題に先生は

- 1) 十分対応出来る
- 2) 不十分だが対応できる
- 3) 対応出来ない

- 4) 小児科医が対応すべきでない
- 5) この問題こそ自治体が責任を持つべき
- 6) その他 ()

2 2. 学童期以後の相談で、先生がご経験された多いものを2つまで選んでください

- 1) 不登校(よく休む)
- 2) 家庭内暴力
- 3) 非行(窃盗、薬物など)
- 4) いじめ
- 5) 不定愁訴(例えば:)
- 6) その他 ()

2 3. 育児不安や子どもの心の問題に小児科医が対応するための実際的な環境について

- 1) 診療報酬として反映されるべき
- 2) 予防接種などのように公費負担とすべき
- 3) 通常診療の中でサービスとして提供されるべき
- 4) どちらでもかまわない
- 5) わからない
- 6) その他 ()

→ 1) 診療報酬として反映されるべき とお答えの先生に

2 3-1 これからの問題として、育児不安や心の問題で来院された場合にその相談料はどうあるべきと考えますか

- 1) 自費診療
- 2) 保険診療で点数をつける
- 3) 月1回のカウンセリング料として加算できる
- 4) 月2回まではカウンセリング料として加算できる
- 5) その他 ()

2 3-2 1時間の相談に、もしも保険診療で点数をつけるとしたらどの程度と考えますか

- 1) 400点
- 2) 700点
- 3) 1,000点
- 4) 1,000点以上
- 5) その問題に臨床心理士と協同しても見合う程度(約 点)
- 6) その他 ()

2 3-3 育児不安や心の問題への相談に応じた場合に保険点数を加算できるようにするためには、小児科医はどうすれば良いと考えますか(複数回答可)

- 1) 子どもの心研修会の充実
- 2) 子どもの心相談医の各地への普及
- 3) カウンセリング技術の修得
- 4) 地域社会の活動を積極的に支援
- 5) 地域の心理士などと密接な連携
- 6) 一定の枠で必ず相談に応じる
- 7) 小児科三者協議会(学会、医会、保健協会)による要望書提出
- 8) その他 ()

厚生科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）
分担研究報告書

出産前小児保健指導（プレネイタルビジット）事業の評価と
地域小児科医数の調査に関する研究

分担研究者：多田 裕 東邦大学医学部・教授

研究要旨

平成13年度の出産前小児保健指導（プレネイタルビジット）モデル事業を実施した地域（医師会）数は厚生労働省の事業費による実施が23地区、日本医師会の援助による事業が23地区であった。従来より多くの地域で実施されたことは、この事業の重要性に関する認識が医師間で広まった結果であると考えられた。

小児保健指導や小児科のかかりつけ医として機能する小児科医の数を把握するために、道府県別の日本小児科学会、日本小児科医会、日本新生児学会の小児科側会員数の調査を行った結果は次の通りであった。

小児人口1万人当たりの小児科学会会員数は大学病院勤務者を除くと、東京(10.3)が最も多く、埼玉(4.2)が最も少数であった。

小児科医会会員数は和歌山(7.4)が多く、茨城(1.4)、埼玉(1.4)少なく、何れも地域による差が大きかった。

A. 研究目的

出産前小児保健指導（プレネイタルビジット）事業は平成8年から実施されているが、全国的に広く普及するに至っていない。平成13年度には厚生労働省と日本医師会は出産前小児保健指導（プレネイタル・ビジット）モデル事業を「産婦人科医・小児科医地域連携事業」と位置づけてその普及・発展について検討している。本分担研究班でこの様な取り組みの成果にもとづき、わが国に広く取り入れられ普及しうる出産前小児保健指導（プレネイタルビジット）

の在り方を検討することを研究の目的とした。同時に出産前小児保健指導や小児科での育児不安の解消のためのかかりつけ医の確保のためにどの程度の数の医師が関与出来るかを知るために、地域別の小児科医の数の把握を試みた。

B. 研究方法

平成13年度の出産前小児保健指導モデル事業の実施状況は、日本医師会の資料から検討した。全国の小児科医の数は、日本小児科学会、日本小児科医会、日本新生児学会の協力

を得て会員数から検討した。

本研究班は、分担研究者の他に、各方面を代表する雪下国雄（日本医師会）、仁志田博司（東京女子医科大学）、中村肇（神戸大学）、清川尚（船橋市立医療センター）、小川雄之亮（埼玉医大総合医療センター）の諸先生に評価委員となることを依頼しているのので、これらの方面からの情報の提供もうけて研究を遂行した。

C. 研究結果

出産前小児保健指導事業の評価と地域別の小児科医数の把握：平成13年度にモデル事業を実施した地域（医師会）は次の通りであった。

厚生省の事業費による実施地域（23地区）：函館市（北海道）、盛岡市（岩手）、大曲市（秋田）、浦和（埼玉）、松戸市（千葉）、江東区（東京）、中野区（東京）、川崎市（神奈川）、相模原市（神奈川）、甲府市（山梨）、佐久（長野）、津地区（三重）、羽曳野市（大阪）、西宮市（兵庫）、姫路市（兵庫）、那珂郡（和歌山）、福山・府中地域（広島）、徳島市（徳島）、丸亀市（香川）、松山市（愛媛）、浮羽郡（福岡）、大分県（大分市）、宮崎県（宮崎郡）

日本医師会の援助による実施地域（23地区）：帯広市（北海道）、十勝（北海道）、岩手医科大学（岩手）、いわき市（福島）、南埼玉郡市（埼玉）、北葛南部（埼玉）、鎌ヶ谷市（千葉）、安房（千葉）、港区（東京）、小石川（東京）、町田市（東京）、長野市（長野）、中高（長野）、更級（長野）、

四日市（三重）、神崎郡（兵庫）、三田市（兵庫）、日高（和歌山）、尾道市（広島）、今治市（愛媛）、宗像（福島）、大分県（大野郡、臼杵市）

各地域の実施方法、効果等の詳細については現時検討中である。

小児科医師数は都道府県別の日本小児科学会、日本小児科医会、日本新生児学会の小児科側会員数を、人口10万人当たりと0～14歳の小児1万人当たりで調査し、結果は次の通りであった。小児人口1万人当たりの小児科学会会員数は大学病院勤務者を除くと、東京(10.3)、島根(8.9)、鳥取(8.8)、徳島(8.6)、香川(8.6)が多く、埼玉(4.2)、栃木(4.3)、茨城(4.5)、佐賀(4.5)が少なかった。小児科医会会員数では和歌山(7.4)、高知(6.5)、山口(6.4)、香川(6.0)が多く、茨城(1.4)、埼玉(1.4)、千葉(1.7)、神奈川(1.8)、奈良(1.8)、沖縄(1.9)が少なかった。

D. 考察

育児不安を感じている親が多くなり、小児科医への相談が増えていることは本研究班の中村、保科両分担研究班の調査でも明らかになっている。育児不安は出生後自宅に帰った直後に最も頻度が高くなるとされている。このため、出生直後から困ったことがあれば相談できる小児科のかかりつけ医が確保されていれば、不安が生じた場合に直ちに相談できるばかりでなく、いつでも相談できるとの安心感から、実際には相談しなくても育児を円滑に行うことが出来る。この時期の育児が不安なしに

行われ、親子の接触・愛着の形成が円滑であれば、その後の育児は比較的容易となると予測される。このため、出生後に児に関する相談あるいは疾病の治療を担当してもらえる小児科医をかかりつけ医として出産前に確保しておくことが望ましい。出産前小児保健指導は子どものかかりつけ医を予め選ぶために、産科医から紹介されて妊娠中に小児科医を訪れ育児指導を受けることである。平成8年から厚生省はモデル事業として普及をはかったが、日本では妊娠中に小児科を訪れる習慣がないことや、対象を育児不安のある妊婦としたこともあって全国的に普及するには至らなかった。

育児不安の解消やそこから生じる育児困難、児童虐待などの予防対策とし出産前小児保健指導は有効な手段と考えられることから、平成13年に本事業を見直し、わが国に普及しやすい方法を探ることになった。本年度のモデル事業では、具体的には訪問の時期を出産前と限らず、分娩施設から退院後も認めることや、対象を育児不安を持っている妊婦と限定せず、産後の育児について相談したい人すべてを対象にするなどの試みをしてその有効性を検討することになっている。

一般の医師の間に出産前小児保健指導が知られるようになり、かかりつけ医を確保するための有効な手段となることが理解されるようになったことにより、本年度の事業は46地域に拡大して実施されている。この制度をさらに広く普及させるために

は、地域の小児科医あるいは家庭医の確保が重要であり、本年度は都道府県別の小児科医数の調査を行ったが、大きな地域差があることが明らかになった。これらの医師を有効に活用するための検討も今後の課題である。

E. 結論

出産前小児保健指導が知られるようになり、かかりつけ医を確保するための有効な手段となることが理解されたことにより、本年度は46地域でモデル事業が実施されている。しかし、小児人口当たりの小児科医の数は全体としても少ない上に地域差があり、今後これの医師を中心に、どの様に対応するかについてはさらに検討することが必要であると考えられた。

F. 研究危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

多田裕：プレネイタルビジットの効用
日本医師会雑誌 126(12):1631-1634, 2001

多田裕：産婦人科と小児科の連携－出産前小児保健指導事業を中心として－小児科の立場から 日本医師会雑誌 126(10):1521-1523, 2001

多田裕：小児科医の新しい役割 月刊母子保健512号:1, 2001

多田裕（分担）：プレネイタル、周産期（プレネイタルビジット）心と体の健診ガイド・乳児編 日本小児医事出版、東京、2001

多田裕、藤崎清道、平山宗広、中林正雄：21世紀の母子保健のめざすもの（新春座談会）月刊母子保健：501号、2001.1.1

2. 学会発表

多田裕：新しい時代の母子医療と保健－「健やか親子21」の実現に向けて第17回東京母性衛生学会学術セミナー教育講演 東京、2002.2.24

多田裕：「今求められている新生児安全管理」神奈川県周産期協議会平成13年度周産期講習会 横浜、2002.1.12

多田裕：育児不安の解消とプレネイタルビジット 日本小児科学会兵庫県地方会特別講演 2001.5.12

多田裕：出産前小児保健指導について 第10回横浜市産婦人科小児科研究会特別講演 横浜、2001.5.25

多田裕：健やか親子のめざすもの 東邦医療短大母子看護研究会特別講演 東京、2001.7.18

多田裕：出生直後の新生児の取り扱い方。乳児保健セミナー講演 岐阜、2001.12.7

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

研究成果に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
多田裕	プレネイタルピジットの効用	日本医師会雑誌	126巻12号	1631-1634	2001
多田裕	産婦人科と小児科の連携－出産前小児保健指導事業を中心として－小児科の立場から	日本医師会雑誌	126巻10号	1521-1523	2001
多田裕	小児科医の新しい役割	月刊母子保健	512号	1	2001
多田裕、藤崎清道、平山宗広、中林正雄	21世紀の母子保健のめざすもの（新春座談会）	月刊母子保健	501号	2-5	2001
保科清	小児科医会の取り組み－子どもの心の相談医研修事業－	日本医師会雑誌	126巻4号	545-548	2001